

2(2) その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付けなど。(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)

特筆すべき教育活動

(1)グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」が6月に採択された。公募によりCOE大学院生を採用し、正副アドバイザーによる複眼的指導を行うとともに、ワークショップおよび国際シンポジウムにおける英語での報告や留学を奨励して、「世界で活躍する、タフで独創的な人材」を育成している。

(2)大学院教育改革支援プログラム「歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画」が9月に採択され、10月にはキュレーター養成コースおよびアーキビスト養成コースという2つの分野横断型コースを設置し、原典と実物を用いた総合教育を実施することによって、国際レベルで活躍できる高度な専門学芸員・研究者の養成に力を入れている。

特筆すべき研究活動

(1)言語学の小泉政利准教授は*Journal of Neurolinguistics*などの国際学術誌等に論文5点、学会予稿集にも5点発表し、国際学会招待講演を海外で3回、国内で1回行った。*Journal of East Asian Linguistics*の編集委員を務めるなど、国際レベルでの研究活動を積極的に展開している。言語認知脳科学の分野には特に力を注いでおり、継続的に複数の外部資金を獲得しているほか、アメリカでこの分野をリードするメリーランド大学との日米共同研究では、日本側の窓口となっている。

(2)考古学の阿子島香教授は、大学院教育改革支援プログラムの代表者を務めつつ、実験考古学のデータを元に石器機能推定法の全国的標準化に貢献する研究成果を挙げている。平成20年度には編著書1点、論文5点(うち英文3点)、学会発表4回(うち国際会議3回)、国際会議の座長1回、その他報告書等6点という精力的な研究活動を展開している。特に、国際的発信が目覚ましい。

(3)インド学仏教史の後藤敏文教授は、昨年度に引き続き『リグヴェーダ』のドイツ語訳(ハーバード大学のヴィッツェル教授と共同)に取り組んでおり、その第2巻の刊行を予定している。

(4)心理学の大淵憲一教授は、「日本人の公正観」を主要テーマに社会心理学研究を進めており、共編著3、訳書1、論文25点(うち英文8)を発表、招待講演・シンポジウム提題等を6回(うち国際学会が3回)行うなど、きわめて精力的に研究活動を展開している。

(5)行動科学の佐藤嘉倫教授はグローバルCOEプログラムの拠点リーダーを務めるかたわら、編著書1点、論文15点(うち英文5、韓国語1)を発表し、このうち韓国語論文を収録した編著は韓国政府の優秀学術図書賞を受賞した。このほか、国内学会で3回、国際学会で8回報告し、国際会議招待講演を4回行っている。

(6)東洋日本美術史の長岡龍作教授は、仙台市太白区にある十八夜観音堂の菩薩像の調査を行い、この像が東北最古の仏像と見られるものであることを発見した。このことは平成20年9月10日の河北新報朝刊1面にて報じられた。

特筆すべき社会貢献活動等

(1)文学研究科独自で、あるいは他部局や県、市町村と共催で、以下のような市民向けの講演会や講座を開設し、いずれも多く市民の参加を得た。有備館講座第七期「『時代』を読む」(宮城県大崎市岩出山 平成20年5月～平成20年11月)、齋理蔵の講座第一期「『歴史』を読む」(宮城県丸森町 平成20年9月～平成20年11月)。後者は平成20年度に新しく開講したもので、有備館講座と同様、好評を博した。11月3日に植物園と共催で市民オープンキャンパス「紅葉の賀」を実施し、植物園での野点、散策、俳句の会、萩ホールでの鈴木三男植物園長出演のNHKハイビジョン放送の視聴、阿部次郎記念賞審査委員の瀬名秀明氏による講演「おとぎの国のサイエンスを語ろう」などを行い、200名以上の市民の参加を得た。みやぎ県民大学大学開放講座「県民のための文学サロン」を8月23日から9月20日まで5回にわたり開催した。10月12日には東北大学ホームカミングデーに合わせて東北文化講演会「いま、方言が面白い!」を開催。ディステイングイッシュト・プロフェッサーである国語学の小林隆教授による講演「方言の隠れた魅力」と東北放送アナウンサー藤沢智子氏による講演「仙台弁かるたができるまで」、さらに両氏による対談を行い、多くの市民、同窓生の参加を得た。

(2)「第2回 青春のエッセー 阿部次郎記念賞」を選定し、平成20年11月3日には受賞者を招待し、「市民オープンキャンパス 紅葉の賀」に合わせ、萩ホールにて表彰式を行った。平成21年3月には同賞の入賞作品集を刊行し、平成21年3月30日付東京新聞コラム「筆洗」および中日新聞コラム「中日春秋」で第2回作品集および優秀作品「ロボット」が紹介された。